

あなたもお読みください
 真実つたえ希望はこぶ
 しんぶん 赤旗
 日刊 1カ月 3,497円
 日曜版1カ月 823円

手良民報

生活相談はお気軽に
 電話 78-0943 (高橋)
 08051428896 (大場美広)
 〈毎月赤旗読者に配達〉
 〈民報のみは月100円〉
 発行 日本共産党・手良支部

毎月発行200号

「中坪の歩み」縮刷版出版を祝う会

月刊紙「中坪の歩み」縮刷版出版を祝う会は11月29日に中坪公民館で開催され、小松敏光出版社長、地元市議、手良公民館長、手良郵便局長、各区分館長、中坪歴代区長、中坪の歩み研究委員など31名が出席しました。

「中坪の歩み研究委員会」は地域の歴史を掘り起こし、まとめ、それを将来に引き継いでいくことを目標に平成8年に発足しました。

毎月月刊紙「中坪の歩み」を発行し全戸配布してきました。平成24年に発刊された「手良誌」にもその内容が多数掲載されています。平成17年に100号になり縮刷版を出版し今回は200号で2回目なり全戸へ配布しました。

祝う会では、今回の出版にあたっては地元出身の出版社社長小松敏光さんより企画、編集、発行までの助言、また多額の費用の負担していただいたので、笠井中坪

決戦を押し通しました。今、自民党の当選者の選挙公報を改めて見ても、日本国憲法を改めて、海外で戦争をする国、いざとなれば国民は誰もがその為に協力しなければ、その時の最高刑（死刑）が死罪（自民改憲案を読めば）などと言つ「道」には一言も触れておられません。

しかし、選挙が終わった途端、自民が多数の議席を得たから「この道」が支持されたと言つ、早くも憲法改悪に着手すると言いだしています。

首相が言つ「この道」とは、日本と世界中の人々を塗炭の苦しみに追い込んだ戦争に突き進んだ「いつか来た、あの道」に他なりません。

自民党の候補者に一票を投じた人々も、決して「そんな道」に進むことを認めないでほしいと思います。そういつか皆さんとも一致

よしのる通信 ⑩

選挙を終えて

年末の慌ただしい時に突如行われた衆議院の解散・総選挙。

皆さんのご支援により、日本共産党は8議席から21議席へと大きく躍進することができました。

まずお寄せいただいたご支援にお礼を申し上げますとともに、この躍進を喜びたいと思います。

さて、この選挙で得た議席、参議院の十一議席と合わせて三十一議席の国会議員の皆さんと力を合わせての、命と暮らし、平和をまもる活動はいよいよこれからが正念場だと思っております。たとえは、安倍首相は「アベノミクス」などと言

区長のあいさつではお礼の言葉などが述べられました。高橋中坪の歩み研究会会長あいさつでは経過の報告があり、今まで継続して発行してこれたことへの協力の感謝と、発行を待っている方々もいるので困難があってもそれを乗り越えて今後も発行を続けていきたいと述べられました。

竹中地元市議員よりは継続していくには区民の繋がりが大事なこと、冊子からその当時の生活の様子がよく分かるなどのあいさつがありました。

アトラクションでは紙芝居「六道原物語」を上演し

点で力を合わせ、決して戦争はさせない、平和の道をと歩みたいと思えます。あと少しで、2015年を迎えます。戦後70年の年。人それぞれ理想があるでしょうが、どうしても大きな前進、決着を付けたい問題の一つに核兵器の廃絶があります。

4月には国連で核拡散防止条約(NPT)の再検討会議が予定されています。世界中の人々が「核廃絶」を求めて声を上げれば必ず実現します。

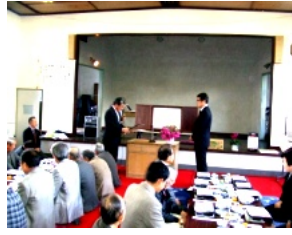
被爆国日本の国民として、この成功のために力を尽くしたいと思えます。

日本共産党
 安心・安全まっすぐり責任者
 大場美広



ました。研究会では今年までに紙芝居・スライドなど6本を制作しています。祝宴では思い出話など和やかに歓談が続きました。

なお、縮刷版(A版・150ページ)冊子は希望者には700円で販売しています。(申込先 電話 78-0943)



小松さんへ感謝状

今年も大勢の参加 中坪集落宮農祭り

中坪集落宮農祭りは今年も「勤労感謝の日」の11月23日正午から中坪公民館で行われ天気の良い中100人以上の多くの人が参加しました。このまつりは区民が一堂に会し、今年の豊穣を祝うとともに、地区内で収穫された農産物を食べながら、より快適でやすらぎのある中坪集落を守るため、大いに語ろうというところ、開催されたのです。

新そばは「そば打ち体験」があり、庭では地場産の花・野菜(ごぼう、長いも、白菜・果樹(りんご)等)即売を行いました。

白鳥広明実行委員長よりは「米価は大暴落であり農業は厳しい情勢の中であるが、地場産の野菜を使つての料理を味わい、久しぶりの出会いもあると思われが、ゆっくり

総選挙の結果について 日本共産党手良支部

14日投票の総選挙で日本共産党は比例代表北陸信越ブロックで11年ぶりに議席を奪還し、全国でも改選8議席から21議席の画期的な躍進となりました。

予算を伴わない法案を衆院で単独で提出できる議席数となりました。

小選挙区5区では水野ちかあきさんは28,947票の得票、17.37%の得票率でしたが残念な結果でした。しかし前回より得票は10,224票、得票率は7.51%伸ばすことが出来ました。

今度の選挙で日本共産党手良支部は日本共産党の政策や考えをチラシで全戸配布し、ポスターの看板を立て、また宣伝力1で街頭から訴えるなどみなさんに理解してもらおうよう努めました。

その中で対話も多くのみなさんから暴走する安倍政権への不安や怒りが寄せられ支持と協力をいただきました。ご支持ご協力をいただいたみなさんに心から感謝申し上げます。

「地震、台風、噴火と災害が続いているがこの地方は大きな災害もなく素晴らしい土地である。農業は自然を守り、国土の保全という働きも返りながら楽しんで」と挨拶がありました。

その後の会食には新そば、五平餅、中坪へ昔力士「雷電」が来たことにちなんで「すりごま」を使い大鍋で煮た「雷電ちゃん鍋」などが出され飲んで食べて歓談しました。

てらのさと

今度の総選挙は日本共産党は多くのみなさんのご支持により改選8議席の2倍を上回る21議席となり、昨年の参院選に続いて躍進できた。衆議院に17ある常任委員会全てに委員を出すことが出来、そのうち11委員会は複数の委員となる。また議案提案権を持ち、党首討論にも参加することが出来るようになった。日本共産党手良支部も政策のチラシを配りながら対話をかされた。事前の新聞報道などで「自民圧勝」といわれたこともあり、安倍内閣の国民の声を無視した暴走をこれ以上許してはならないなどの声が多く聞かれ支持が寄せられた。日本共産党は全国2万の党支部、30万人の黨員、2685人の地方議員をもち、草の根で国民と結びついた運動を目指していること、結党以来、企業・団体献金も、政党助成金も受け取らず党の財政は黨員の払う党費、個人からの募金、「しんぶん赤旗」の事業収入から成り立っていることも話した。そのなかで、ぶれない党、まともな党の姿を押し付けてもらいあらためて支持を寄せてくれた人も多くあった。日本共産党を伸ばしてよかったです」とより多くのみなさんに実感してもらおうと、地域のみなさんご意見をよく聞いて、地域のみなさんと結びついて草の根から地道に粘り強く国民本位の政府をめざしてがんばらなければならぬと思つている。

「この道」に進むことを認めないでほしいと思います。そういつか皆さんとも一致

(T)

歴史を見直し考える
①その2

この前は我々日本人のDNAは朝鮮から渡ってきた先祖の影響を多分に受け継いでいるというお話をしました。今度は再び歴史家網野善彦さんの学説を紹介しながら、「日本は瑞穂の国」という一見当たり前の、どうにも動かしようのない「事実」について考えたいと思います。

弥生式文化(紀元前300年頃から紀元300年頃)が稲作を我が国に広めたことは常識となつています。そして奈良時代には公地公民の理念のもと班田収受の制度が行き渡り、民衆は班田を与えられるの引き換えに租・庸・調という税金を国に納めなければならなかった。

生活雑記 129

ありがとうございます
小松利江

大雪に見舞われた新春、大寒のような寒波が押し寄せたこの師走、大自然の災害が続くお米も凶作に近い作柄だったこの一年も終わろうとしています。

今年一年、読者の皆様には本当にお世話様になりました。有難うございました。もう止めたい、止めない

この事は中学や高校の日本史でもやりますから、やはり常識と言っているではないでしょうか、実はこれはあくまでもたてまえであり、実態はどうであったかという

しかし、実はこれはあくまでもたてまえであり、実態はどうであったかという。支給されるはずの班田が決定的に不足していたり、とんでもない遠い所の(当然通つて耕作も出来ない)水田を与えられたり、あるいは様々な労働や兵役に狩りだされ、農民は逃亡したり、よその土地へ浮浪したりという状態だったよう

結果として班田制は短期間で崩れていきます。732年に三世一身の法(新しく耕地を開いた者は三世の間その土地の保有が認められる)、743年には墾田永年私財法(開墾した土地ればと思ひながら、一年が過ぎてしまいました。

時間を重ねるたびに、頭も体もぎこちなくなつて油切れのような状態が続く、衰えてゆく様子を痛切に感じる昨今です。

一抹の淋しさや、辛さ、悲しみが、脳裏を包みます。読者の方々から思いもかけない励ましや、楽しみにしているよと言つ一言に支えられてきました。そうこうしているうちに夫が旅立ち一人で迎える新年も今年で四年目になります。

は定められた面積を限って永久に私有を認められると相次いで政府自ら公地公民の原則を崩してしまいます。

やがて平安時代になると、財力のある貴族や寺院神社等が開墾を進め大土地所有者となつていきます。これが荘園制です。

それが「瑞穂の国」(『古事記』、『日本書紀』に出てくる)という理想像を生んだことです。現実とはかなりかけ離れた理論なのでした。

飲み込む術を覚えたような日々が流れてゆきます。姑の年になってみて、初めて姑の気持ちが判り、人生を振り返って考えたり反省したりして心の葛藤は続きますが、もしかして惚け防止につながると思ったら我慢する、くよくよしない、前向きに頑張る、を来年の目標にして若い先短い人生を大切にしようなんて格好よいくたさ。

今年も見事に咲きました下手良の鈴木さん
下手良の鈴木孝さん(66歳)は今年も自宅の横の畑で菊を見事に咲かせました。



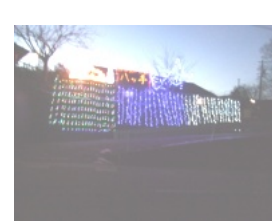
菊の畑

今年も見事に咲きました下手良の鈴木さん
下手良の鈴木孝さん(66歳)は今年も自宅の横の畑で菊を見事に咲かせました。ここは昔は桑畑でしたが、手良の活性化に役立てば、また伊那市が菊の花でいっぱいになればと5年位前から始めました。

今年もきらめくイルミネーション
八ツ手公民館
師走の県道を車で走ると今年も又八ツ手公民館のイルミネーションのきらめきがきれいに人目を引きます。



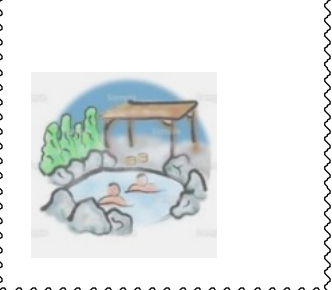
俳句 師走 向山光子
葦漬の葉の流れ来る使川
家毎に程良く乾くつるし柿
一年の慰労の出湯師走かな
りんご村のこの天をら戴きぬ
青空へ師走選挙の第一声



イルミネーション

順に数も増やして思いますが予算もあるように思っています。順に行かないようです。

教室 手良公民館主催の親子自然教室は11月29日の夜行われ、親子18名が参加しました。講師は元小学校理科専科教師の野口輝雄先生。天体望遠鏡で月、火星などの冬の星を観測しました。地球に一番近い星の距離は4.7光年だと言われていた。またアンドロメダ銀河は地球から約239万光年の距離にあるといわれていた。1光年は光が1年間に通過する距離。子供たちは今見える星が自分が生まれる以前にその星が光を放射していることに不思議さを感じていました。



おねがい
身近な出来事を、早く皆さんにお伝えしたいと思ひます。何かありましたら左記まで連絡をお願いします。
七八一〇九四三 高橋

管理を担当する市の職員から終末処理場内各施設の状況などについて説明を受けました。



手良浄化センター

総代研修会
農集排維持管理組合
手良地区農業集落排水(下水道)維持管理組合の総代研修会は11月30日の午前中、八ツ手の手良浄化センターで行われ十数人が参加しました。

中坪公民館で絵手紙教室やっています
連絡先 高橋 7810943
酒井要子

寒波にもめげず元気に八ツ手高齢者の会忘年会
11月17日に八ツ手公民館で八ツ手高齢者の会の忘年会が行われました。前日の雪で路面がスケート場のようになつて寒い日でしたが、20人の会員が元気で集合。

お昼の馳走は山の恵、首鍋で忘年会を行いました。首鍋は会員様の差し入れで他の野菜や肉が見えないほどの首鍋が大盛りでした。新年会は大雪、忘年会は大寒波、それにもめげず元気にカラオケを楽しめ今年度の反省と来年の新年会を決めて散会しました。

野口高齢者クラブ(片桐辰雄会長・会員87名)は12月11日に野口公民館で忘年会も兼ねて蕎麦の会食を行い40数名が参加しました。

蕎麦は名人3人が50人分を打ちました。今年は4回目は打ちつたのみならず、追っかけなどみなさんと見えて歌いました。合間に飛び入りで何人かが生で歌い楽しみました。

蕎麦は名人3人が50人分を打ちました。今年は4回目は打ちつたのみならず、追っかけなどみなさんと見えて歌いました。合間に飛び入りで何人かが生で歌い楽しみました。飲み物はそれぞれ飲みたいものを持参しました。